

**事業所名** グループホーム さくらそう

日付 平成 20年 8月 14日

**評価機関名** 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 高齢者福祉・医療における  
実務経験3年

元小学校教諭  
元婦人相談員

大学講師  
フォトグラファー

**自主評価結果を見る** (工事中)

**評価項目の内容を見る**

**事業者のコメントを見る**(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)(記述式)

田園風景が広がり、季節を気軽に感じる事が出来る施設である。採光、塗装(白壁)が明るく、幅広く整理がよく行き届いた廊下なので、天気が良い時には、窓を空けると、各ユニットの廊下を抜けて入ってくる風は気持ちよく、気分まで爽快になる。また、家族の希望である「温かく、明るい」ホームを目指すべく、入居者及びその家族等の協力で作成した季節に合った掲示物や標識等の工夫もあり、温もりが感じられる。

前回の訪問調査では1ユニットであったが、新たに1ユニット加わり、新生さくらそうとしてスタートを切っている。各ユニットの造りが中央のホールを中心として対称なので、当初は職員や入居者も時々戸惑う事が合ったようだが、今では入居者は隣のユニットへ遊びに行ったり、職員は食事の材料や調味料などをお互い貸し借りしたりすることで、垣根を越えたユニット作りが行われているように感じた。また2ユニットになっても、職員の見守りに対する姿勢も変わっておらず、むしろ、ユニットが増えた事でユニット間の結束や、職員同士の会話も増え、仕事(介護)がもっとし易い環境に変わってきているようだ。また、調理場から入居者の居室が死角となるため、それを防ぐためのミラーが設置しており、安全に考慮した工夫が見られる。

**特に改善の余地があると思われる点(記述式)**

・印刷物(運営の理念等)の掲示物が文章表現で細かく、小さな文字で読み易い。ポイント等を絞って大きく表示された方が目に付き易く、分かり易いと思う。  
・地域との交流は意識的に難しい面が強くなりがち。スタッフも工夫を惜しまないが、何とか開放の在り方にアイデア(良策)がないだろうか。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	認知症になり要介護状態等となっても、人間としての尊厳をもって最後まで生活していくことを目的に、共同生活を営むためのサービスを提供している。また、職員は利用者の健康、安全を常に考え、一緒に楽しく笑顔で取り組める施設を目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	職員は親しみやすい呼びかけを心がけていて、入居者に当たり前と言葉かけを行っている。そして、職員の自主性とストレス解消や働きやすく楽しく笑顔で仕事ができる環境を確保するために休憩時間を確保しながら、ゆとりを持って介護に取り組んでいる。 また、居室に関して、入居者の要望があれば畳敷きにして、本人が生活し易いスタイルを追求している。廊下や共有空間の掲示物にも工夫がなされており、入居者個々の喜びにも寄与している。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	「目配り」「気配り」「心配り」を第一に考え、日々の介護に取り組む、また、職員一同一体となって、サービスの継続性確保に努めている。そして、利用者の願い、家族の意見に耳を傾け、入居者が満足するように努めている。 また、帰宅願望があった入居者には、家族に協力してもらい、一旦帰宅させて様子を見ることにしている。多少不安材料はあったが、入居者本人も安心したのか「ホームへ帰る」と言った行動がみられたようだ。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	日頃から家族の方が来訪した時、密な話し合いの場を設けて、行事等家族からの要望があれば積極的に努めるようにしている。また、入居者が作成した編み物や絵などの作品を、壁等に展示して誰でも気軽に鑑賞できるような工夫をしている。		